

令和8年度 1年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
地歴公民	地理総合	2	2	各HR

使用教科書	副教材等
高等学校 新地理総合 新詳高等地図	新詳地理資料 COMPLETE 2026 新課程版 サクシード地理

科目の目標
<p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。</p>

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。
③ 主体的に学習に取り組む態度	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。
評価方法	
記述の点検、確認、分析 行動の観察、確認、分析 (定期テスト、小テスト、課題レポートやその他提出物などへの取り組み状況、授業への取組状況 等)	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	地図でとらえる 現代世界 第1章 地図と地理情報システム	地球上の位置と時差 地図の役割と種類	緯度経度、時差の仕組みについて理解している。 緯度・経度・時差が生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 統計地図の作成を通して、統計の編集の方法、正しい統計地図の選択、統計地図作成に関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。 地理情報システム (GIS) のしくみやこれを支える技術、GISの活用場面について理解しており、基礎的・基本的な技能を身に付けている。 GISを通し、地域の課題を多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
				○	○	○
				○	○	○

	第2章 結び付きを深める現代世界	現代世界の国家と領域 グローバル化する世界	国境紛争の事例を通じて、国境、国家の領域の画定における要素を多面的・多角的に考察し、表現している。 世界的視野から見た日本の位置と領域、排他的経済水域の特徴を踏まえ、日本の領土問題について多面的・多角的に考察し、表現している。 経済のグローバル化の中での貿易体制・国家（地域）間のつながりの変化を理解している。 交通・通信の発達が経済のグローバル化に与えた様々な影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	国際理解と国際協力 第1節 世界の地形と人々の生活 第1章 生活文化の多様性と国際理解	変動帯と人々の生活 大地形と人々の生活 安定地域と人々の生活 河川がつくる地形と人々の生活	それぞれの地形の形成されるメカニズム・特徴を理解している。また、地形がもたらす人々の生活への恵みと脅威について、多面的・多角的に考察し、表現している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	第2節 世界の気候と人々の生活	海岸の地形と人々の生活 氷河地形・乾燥地形・カルスト地形と人々の生活 気温・降水と人々の生活 大気大循環と人々の生活	気温・気候と人々の生活の関連について理解している。 大気の大循環により、雨季と乾季、夏季乾燥の気候や、恒常風が発生していることを理解している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7		世界の植生と気候区分 熱帯の生活 乾燥帯の生活 温帯の生活 冷帯・寒帯の生活	気候区分が植生との関連で分類されていることを理解している。 各気候の形成されるメカニズム、特徴を理解している。また、気候とその地域の産業、生活がどのように関わっているかを多面的・多角的に考察し、表現している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8, 9	第3節 世界の言語・宗教と人々の生活 第4節 歴史的背景と人々の生活	世界の言語と人々の生活文化 世界の宗教と人々の生活文化 歴史的背景が人々の生活に与える影響 移民の歴史と人々の生活の関わり 植民地支配の歴史と人々の生活の関わり 国家体制の変化と人々の生活の関わり	言語（語族・語派）、宗教の特徴と分布について理解している。 言語や宗教と人々の生活との関わりについて多面的・多角的に考察し、表現している。 地理的事象の人文地理的要素には、歴史的背景が密接に関わっていることを理解している。 地域の産業、社会構造について環境決定論にとどまらず様々な歴史的背景に着目して多面的・多角的に考察し、表現している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10	第5節 世界の産業と人々の生活	人々の生活を支える農業の発展 人々の生活を支える工業の発展 グローバル化する現代の産業と人々の生活 産業力が世界の生活文化に与える影響 経済成長による人々の生活の変化 地域統合が人々の生活や産業に与える影響	産業そのものの発展について及び、各地域における産業の時空間的变化とその背景について多面的・多角的に考察し、表現している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

11	<p>第2章 地球的課題と国際協力</p> <p>第1節 複雑に絡み合う地球的課題</p> <p>第2節 地球環境問題</p>	<p>相互に関連する地球的課題とその解決に向けて</p> <p>多様な地球環境問題</p> <p>熱帯林の破壊への対策</p> <p>地球温暖化への対策</p>	<p>持続可能な社会を実現させるために、どのような取り組みが必要か、主体的に探究しようとしている。</p> <p>環境問題の発生している地域分布について理解し、その背景について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>地球温暖化の解決に向けた取り組みについて理解している。</p>	○	○	○
12, 1	<p>第3節 資源・エネルギー問題</p> <p>第4節 人口問題</p> <p>第5節 食料問題</p>	<p>世界のエネルギー・鉱山資源</p> <p>エネルギー利用の現状と課題</p> <p>地域で異なるエネルギー問題への取り組み</p> <p>世界の人口</p> <p>発展途上国と先進国の人口問題</p> <p>地域で異なる人口問題への取り組み</p> <p>飢餓と飽食</p> <p>地域で異なる食料問題への取り組み</p>	<p>様々なエネルギー資源・鉱山資源の存在、分布を理解し、既習内容との関係性について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>各地域が抱えるエネルギー利用に関する課題について理解し、それに対する取り組みについて具体例をもとに主体的に探究しようとしている。</p> <p>人口分布の地域差や、出生率、死亡率の地域差について理解している。</p> <p>問題の地域差の背景と、そこから起きるさらなる問題について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>地域によって異なる取り組みの背景を人口動態から考察し、表現している。</p> <p>飢餓・飽食が起きている地域の分布を理解している。</p> <p>食料問題の解決に向けて、主体的に探究しようとしている。</p>	○	○	○
2	<p>第6節 都市問題</p> <p>持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>第1章 自然環境と防災</p>	<p>世界の都市の発達</p> <p>発展途上国と先進国の都市・居住問題</p> <p>地域で異なる都市・居住問題への取り組み</p> <p>日本の地形</p> <p>日本の気候</p> <p>地震・津波による災害</p> <p>地震・津波の被災地の取り組み</p> <p>火山の恵みと災害</p> <p>火山と共生する地域の取り組み</p> <p>様々な気象災害</p> <p>気象災害への取り組み</p>	<p>都市の分布・内部構造について理解している。</p> <p>途上国と先進国で都市問題が異なる理由について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>地域によって異なる取り組みの背景を都市問題の違いから考察し、表現している。</p> <p>日本の地形・気候の地域差について理解している。また、地形・気候の地域差が起きる理由について、多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>地震及び火山の分布と地形との関係性について理解しており、それらが人々の生活にもたらす恵みと脅威について多面的・多角的に考察し、表現している。また、それらに対する取り組みについて理解している。</p> <p>災害の地域差と環境、都市化などとの関係を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>地域の自然環境、都市化の状況に合わせた取り組みについて、主体的に探究しようとしている。</p>	○	○	○
3	<p>第2章 生活圏の調査と地域の展望</p>	<p>減災への取り組み</p> <p>被災地への支援</p> <p>地理的な課題と地域調査</p> <p>現地調査の準備</p> <p>現地調査の実施</p> <p>調査の分析と発表</p>	<p>減災、防災についての取り組みについて理解している。</p> <p>ハザードマップを用いて、地域の災害に対する脆弱性、避難箇所などについて理解している。</p> <p>地域の地理的課題を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>準備、現地調査の方法、分析及び発表の方法について理解している。</p> <p>地理的課題に対して問いを立て、主体的に探究しようとしている。</p>	○	○	○

令和8年度 1年次 教科シラバス

教科	科目	単位数	学年次	集団
公民	公共	2	1	1年次

使用教科書	副教材等
公共新訂版（実教出版）	公共訂版演習ノート（実教出版）

<p>科目の目標</p> <p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追求したり解決したりする活動をとおして、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>(3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
② 思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

評価方法
記述の点検、確認、分析 行動の観察、確認、分析 (定期テスト、ワークシート、課題レポートやその他提出物、グループワークや発表等への取組状況、授業への取組状況等)

学習計画						
月	【単元名】	【使用教科書項目】	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
	第1編 公共の扉 (1) 公共的な空間を作る私たち	第1章 社会を作る私たち 1 青年期と自己形成 2 自己形成の課題 3 キャリアと社会参加 4 伝統・文化と私たち	① 自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解する。 ② 人間は個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し、高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解する。 ③ 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間をつくり出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解する。 ④ 社会参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤ 公共的な空間を作る私たちについて、より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。	○	○	○

(2) 公共的な空間における人間としての在り方 生き方	第2章 人間としてよく生きる	<p>①選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる厚生などの義務を重視する考え方などについて理解する。</p> <p>②現代の諸課題について自らも他者もともに納得できる解決方法を見出すことに向け、①に示す考え方について探究することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解する。</p> <p>③人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取り、まとめる。</p> <p>④倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者もともに納得できる解決方法を見出すことに向け、思考実験などの概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>⑤公共的な空間における人間としての在り方生き方について、より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。</p>	○	○	○
	1 古代ギリシアの人間観				
	2 宗教と人間				
	3 科学と人間				
	4 自由の実現				
5 社会を作る人間					
(3) 公共的な空間における基本的原理	第3章 他者とともに生きる	<p>①各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解する。</p> <p>②人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本原理について理解する。</p> <p>③公共的な空間における基本原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>④公共的な空間における基本的原理について、より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。</p>	○	○	○
	1 人間と幸福				
	2 公正な社会をめざして				
	第1章 日本国憲法の基本的性格	<p>①法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成維持されていくことについて理解する。</p> <p>②政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土(領海、領空を含む。)、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。</p> <p>③職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢化における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の動き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む。)等に関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重をともに成り立たせることが必要であることについて理解する。</p> <p>④現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる。</p> <p>⑤上記①から③迄の事項について、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠を持って実現する。</p> <p>⑥自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たちについて、より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。</p>	○	○	○
	1 日本国憲法の成立				
	2 日本国憲法の基本的性格				
	3 自由に生きる権利				
	4 平等に生きる権利				
	5 社会権と参政権請求権				
	6 新しい人権				
	7 人権の広がりや公共の福祉				
	8 平和主義とわが国の安全				
	9 こんにちの防衛問題				
	第2章 日本の政治機構と政治参加				
	1 政治機構と国会				
	2 行政権と行政機能の拡大				
	3 公正な裁判の保障				
	4 地方自治と住民福祉				
	5 政党政治				
	6 選挙制度				
7 世論と政治参加					

第2編 よりよい社会
の形成に参加する私
たち

第3章 現代の経済社会
1 経済主体と経済活動の 意義
2 経済社会の変容
3 市場のしくみ
4 市場の失敗
5 現代の企業
6 国民所得
7 経済成長と国民の福祉
8 金融の役割
9 日本銀行の役割
10 財政の役割と租税
11 日本の財政と課題
第4章 日本経済の特質と 国民生活
1 戦後日本経済の成長と 課題
2 転機に立つ日本経済
3 経済社会の変化と中小 企業
4 農業と食料問題
5 消費者問題
6 公害の防止と環境保全
7 労働問題と労働者の権 利
8 こんにちの労働問題
9 社会保障の役割
10 社会保障制度の課題

○

○

○

	<p>第5章 国際政治の動向と課題</p> <p>1 国際社会と国際法</p> <p>2 国際連合と国際協力</p> <p>3 こんにちの国際政治</p> <p>4 人種・民族問題</p> <p>5 軍拡競争から軍縮へ</p> <p>6 国際平和と日本の役割</p> <p>第6章 国際政治の動向と課題</p> <p>1 貿易と国際収支</p> <p>2 外国為替市場のしくみ</p> <p>3 第二次世界大戦後の国際政治</p> <p>4 地域的経済統合の進展</p> <p>5 国際経済のつながりと課題</p> <p>6 発展途上国の諸課題と日本の役割</p>				
C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	<p>第3部 持続可能な社会づくりの主体となる私たち</p> <p>1 課題の設定</p> <p>2 情報収集と読み取り・分析</p> <p>3 課題の探究</p> <p>4 自分の考えの説明、論述</p>	<p>①地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標しにて論拠を基に自分の考えを説明、論述する。</p> <p>②持続可能な社会づくりの主体となる私たちについて、より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。</p>	○	○	○